

町田市経営診断協会が記念式典

町田市政と共に歩んだ40年



三代と十歳ぐらい違いです。三人とも元気でやっております。今日は四十周年と云う事ですが、私はその内の半分位しか会には所属していないので、発足当時の事は存じ上げていません。今日は、加賀谷さんにお話し頂ければと思います。

石坂文一市長の祝辞。

「最近の市役所の業績を端的に言いますと、民間企業のように複式簿記を導入して五年経ちまして企業会計ですつとやっております。全国七〇〇余の市があるのですが、その内の第一号として企業会計に移行しました。東京都と大阪府はその前にやっておりますが、市としては町田市が初めてでございます。導入にあたっては、色々な準備に三年間費やしました。導入前では、議会で、町田市

一月十八日午後六時三十分から、町田市経営診断協会(MCA)創立四十周年記念式典が、BWRンブランドホテル東京町田に於て開催された。開会后、猿山康継理事長が挨拶を行った。「当会は四十周年を迎え、私は三代目の理事長になります。初代理事長が加賀谷泰雄さんで、二代目の理事長が丸山藤夫さんです。初代、二代、

にはどれくらい

の面積の市有地があるのかと質問されました。把握していない」と答弁し、して非常に恥ずかしい思いをしました。それから、事業用に使

える資産と売却可能資産を仕分けし、貸借対照表を作成しました。大変な作業だったのですが、できてからは資産や投資について議会の方も企業会計の決算をベ

ースにした、コストパフォーマンスを一つひとつ評価したものを使用して質問頂いております。

企業会計の決算と同様です。職員も年度比較どの程度改善されているか白目の下に曝されますので、必死になって仕事をしております。そういう意味で、皆様方経営管理面で日頃の指導を頂いているものを糧として助けられていると思

います。」

深澤勝会頭の祝辞。

「町田商工会議所は今年で三十周年ですけれども、前身の町田市商工会は昭和36年に設立されまして、商工会時代には経営診断協会に様々な協力を頂きました。改めて感謝を申し上げます。また、この数年は、理事長の猿山先生には、商工会議所の監事をお務め頂き、既に三期を終え、今四期目をお務め頂いております。監査を通じて商工会議所のあるべき姿を高所大所から、指導頂いて、有難く思います。今、事業者の問題は、高齢化に伴った事業承継の難しさでございます。一九九五年が経営者の平均年齢が47歳、二〇一六年には66歳と、19歳も高齢化しております。現今限りなく70歳に近づいていと思われれます。団塊世代が70歳に突入しますので経営者の高齢化は加速すると思われれます。その内、六割以上は後継者

未定でございます。これで40万社の中小企業が消えており、このままいくと日本経済はどつなるのかと危惧しておるところでございます。国も施策を考えて頂いておりますが、先生方のご協力も宜しくお願い致します。」

この後、町田青年会議所副理事長戸塚正人氏、町田市商店会連合会会長林伸光氏が祝辞を述べ、初代理事長加賀谷泰雄氏の発声で乾杯した。

町田市経営診断協会は昭和58年四月一日、当時の太下勝正町田市長の強い懇請により、町田市商工会の経営戦略の為の知恵袋として、会員数20名で設立されるに至った。

昭和62年、第一回「町田商圏経済指標」を発表し、平成2年、町田商圏を明確に絞り込み「武相エリア経済指標」と改め今日に至る。対象エリアは、町田、相模原、大和、座間、海老名、綾瀬、厚木の7市と横浜市緑区(現青葉区)、川崎市麻生区

平成11年には、受託事業を受け持つ、武相コンサルティング協同組合を設立し、MCAは研究会・相互研鑽地域貢献中心の活動に明確化。平成21年に、武相地域研究センターを設立。平成25年、MCAを屋号とする、一般社団法人多摩経営工房を設立。現在は、猿山理事長の下、総合的コンサルタ

ント・チームとして「経営のかかりつけ医」を目指し活動している。